

令和7年度第2回「京都府水素社会みらいプロジェクト検討会議」結果概要

- 1 日時 : 令和8年3月24日(火)午後2時~4時
- 2 場所 : 京都経済センター4-B及びオンライン ※非公開
- 3 出席者 : 出席者等名簿のとおり
- 4 議事

- (1) 「京都府水素ビジョン」の骨子について【京都府】
- (2) その他(意見交換等)

5 主な意見等

- 熱需要については、温度帯別の需要や2030年で電化できない需要がどの程度残るかの調査も必要。卒FIT電源の確保については、どれほどの電力を調達できるかや、不安定な電源であることも水素製造の際には配慮すべき。加えて、水素の製造コストに直結するため、コストの視点も事業者との対話の中で確認していくことが必要。
- 水素はクリーンであるが、実利ある脱炭素の視点が重要になっている。SSBJやSBTなど、大企業にはScope3の取組が求められるようになり、中小企業も対応が必要になるため、水素の規制関係の情報発信も必要となるであろう。
- 国の動向として、商用車の水素化にスポットが当たっており、京都は兵庫県や愛知県といった重点地域の間際に位置していること、観光地でバスやタクシーの利用も多いことから言及すると良い。また、大阪や兵庫との陸路の連携については、今後具体的な輸送の検討を行えると良い。
- 面的展開がキーポイントであり、企業が参画するか否かは規模感が指標となり得るため、具体的に示せると良い。また、貯蔵に関する規制の観点から、需要量と貯蔵量を試算の上、国へ規制緩和を要望していくこともお願いしたい。加えて、高圧ガスの取扱いや機器のメンテナンス等の人材育成も重要。ホテルで燃料電池の排熱を給湯に活用している事例があるため、京都らしさとして修学旅行生の学習に活用できれば環境学習にもつながるのではないかと。
- 地域性を考慮できており良い計画と感じた。水素供給は、輸入水素が難航しており、地産地消で始めざるを得ないだろう。卒FIT電源を使うということだが、見込める電力量と水素製造量、その量に適した事業の検討、電力調達の法整備化も課題。
- 北部と南部に分けて、サプライチェーンや利用法を例示しているが、優先順位もあった方がよい。
- スーパーマーケット等での水素の活用に向けて、既存の電気やガスなどと比較し特徴がわかる資料があればよい。
- BCPや防災の観点について、非常時の利用想定や必要設備を具体的に試算した事例やイメージがあるとよい。
- BCPの観点は重要であり、避難所での実証など具体的な取組や、道の駅や観光地でBCP拠点としてのモデル事例の施策があればよい。
- 熱需要について、ボイラーは大規模の水素利用となり、2040年など先の話となるため、小規模の水素利用からスタートする地産地消の検討もしていただきたい。
- 地産地消の水素について、卒FIT電源のみでは困難であり、安価な電気を蓄電池に貯め、その電気を活用して水素を製造することも考えられる。今後は必要な電力量の試算、電力供給の確保と使い方も検討していただきたい。また、長田野工業団地が位置する福知山市は脱炭素先行地域に採択されたこともあり、市と府で連携し取組を進めていただきたい。
- FCタクシーについて、東京都で導入が進んでおり、先行事例として参考になるだろう。また、国際連携について、京都はグローバル都市であり、ロードマップに記載してはどうか。JH2Aが主催する地産地消水素などのイベントに参加し、関係者との連携のきっかけを作ることも必要。